

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

世界的な競争と「共生・協働」が進む現代社会において、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、中長期までも視野に入れた地域貢献の意識を持ったグローバル人材の育成が求められる。

また、人工知能（AI）、IoT(Internet of Things)、ビッグデータ、情報セキュリティ分野の急速な進展などに伴う産業構造の変化も著しく、専門性、創造性の高い付加価値型の職業に対する需要が高まるなどの就業構造の変化、地方創生の必要性の高まりといった社会変化への対応が求められている。

一方、中央教育審議会は、我が国の高等教育の将来像とその実現に向けて取り組むべき施策を示した。答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年1月）の中で、「21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる『知識基盤社会』の時代である」とし、「これからの『知識基盤社会』においては、高等教育は、個人的人格形成の上でも、社会・経済・文化の発展・振興や国際競争力の確保等の国家戦略の上でも、極めて重要である」としている。

また、教育再生実行会議が平成25年5月に示した「これからの大学教育等の在り方について」（第三次提言）の中でも同様に、知識基盤社会において「未踏の地への挑戦により新たな知を創造し、社会を変革していく中核となっていくこと」が大学の役割として期待されている。

このような知識基盤社会にあって名桜大学は、建学時から「国際性」と「地域貢献」を強調し、教育研究を通して国際社会で活躍できる人材を育成してきた。それは上述の審議会答申等と軌を一にするものである。

本学が立地する沖縄県は、地理的、歴史的要因により日本の中にあって特色ある地域文化を発展させてきた。東アジアと東南アジアを結ぶ立地条件の持つ特性は、日本列島の連なりの中できわだった特徴といえる。加えて第二次世界大戦によって唯一の地上戦が行われた場所であり、20万余の沖縄県民の犠牲と、多くの文化遺産を失ったことは痛恨の極みである。しかしながら戦後もたらされた自由主義、民主主義の時代の潮流は、県民の自らのアイデンティティを求めるといふ思想的契機をつくるとともに、伝統文化の活性化を促した。琉球大学をはじめ幾つかの大学が設置されて、学術研究や文化活動、高等教育の場が一般社会まで広がったことにそれを見ることができる。しかし、140万人の人口を抱える沖縄県にとって、これら既存の大学だけでは十分ではなく、しかも経済的発展を遂げてきた日本の国際社会に果たす21世紀の役割を想うとき、国際的な人材の育成が必要になってくることは言うまでもない。

沖縄県は、島嶼性、海洋性の特性を持ち亜熱帯に属するので、東南アジア、オセアニア、中南米などの地域の文化・歴史・社会の研究に適している。これらの地域には、20世紀初頭以来多くの沖縄県からの移民が在住しており人的・文化的なつながりもできている。また、中国、韓国とは古くから密接な文化交流が盛んである。21世紀を迎え、地球規模をもって人類の平和、繁栄を望もうとしているとき、このような沖縄県を持つ地理的、歴史的条件を活かして環太平洋地域を結ぶ高等教育の場を創設することは極めて意義深いものである。

具体的には、①日本列島を軸としたこれらの地域の文化学、②先端科学の一分野である情報科学、③これからの発展が期待される観光産業学、健康科学についての教育・研究に取り組み、外国人研究者などを受入、国際的な教育・研究の場を培いたい。これは、アジア、環太平洋地域における学術研究の一大メッカをつくることが期待されるものである。

沖縄県は厳しい歴史的体験をくぐりながら常に平和と自由を愛し、新たな可能性に向かって絶えざる進歩を指向してきた。このような沖縄県に「平和・自由・進歩」を理念とする大学を創設することは、極めて意義深いものと考えられる。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

■国際文化学科

ボーダレス化が進む今日の国際社会において、異文化理解は、全ての知識人に等しく強く求められる資質である。日本語や日本文学に関する学びを通して日本の文化を深く理解し、国際社会に発信できる素地を備え、その基盤の上に環太平洋地域を中心とする国・地域の言語・文化・政治等を考究する人材の育成は今や時代の要請である。

沖縄県は古くから、特に東南アジア及び中南米地域と貿易や移民を通して密接な関係があり、これらの地域文化、社会、歴史、宗教、芸術等についての教育・研究が極めて必要である。そのような教育・研究は、沖縄県の地理的・歴史的・文化的な特性をふまえて、国際社会の変動や日本の政治・外交を理解することによって深められるものであることから、学際的な学びが求められていると言えよう。加えて地域文化論の教育・研究を進めるための手段の一つとして関連地域の言語能力を重視し、国際共通語としての英語を中心に、特に当学科が教育・研究の対象としている地域の言語（中国語、韓国語、タイ語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、フランス語）の習熟度を高める必要があることから国際文化学科を設置することとした。

（2）教員養成の目標・計画

①大学

「国際社会で活躍できる人材の育成」という本学の教育目標を踏まえ、教員養成においては、「国際社会で必要とされる基本的な資質能力」、「変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力」、「教員の職務から必然的に求められる資質能力」の形成を基盤としつつ、「広く豊かな教養」、「教育者としての使命感」、「生徒の成長・発達についての理解と教育的愛情」、「教科等に対する専門的知識や技能」、「学級（保健室）をマネジメントする能力」という実践的指導力を培うことを目標としている。

教養教育科目や専門教育科目等によって基盤となる資質能力や「広く豊かな教養」を育みつつ、1年次教職科目である教職概論、教育原理では教職への関心を高め、2年次教職科目である特別支援教育等の6科目では、基礎的な実践的指導力を培う。3年次教職科目である教育方法等の5科目や教科教育法では、模擬授業、具体的な事例検討などを通して基礎的な実践的指導力の定着を図り、4年次の教育・養護実習や教職実践演習によって自らの力量を振り返りながら改善していくことによって、さらなる資質能力及び実践的指導力の充実をめざす計画である。

また、本学は「沖縄県北部の地域活性化」を大学創設の趣旨の一つとしているため、教職課程履修学生の地域での活動や大学と地域との連携・協働を重視している。名護市近郊での継続的な学習支援ボランティア、離島地域や国頭村での滞在型学習支援ボランティア、恩納村での進学支援ボランティア等への参加、大学と沖縄県北部の市町村教育委員会・学校が連携・協働して実施する教育・養護実習を通して、地域の教育課題を把握し、その克服に資する教師のあり方を検討する機会を提供することで、教職履修学生の資質能力、実践的指導力の育成を図っている。

以上のような目標設定、実践構想、計画の下、本学では国際的教養を身につけた教育専門人材として地域課題の克服に向けて取り組むことができる教員を育成したいと考えている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

大学としての教員養成の目的を踏まえ、国際学部国際文化学科においては、多文化理解力、高い日本語能力、英語をはじめとする外国語の実践的運用能力を身につけた人材を輩出することを目的として、国際文化コース、英語・英語文学コース、日本語・日本文学コースにコース分けし、学生の履修指導を行う。

日本語・日本文学コースでは、国際的な教養・視野を身につけつつ、社会で求められる実践的な国語力と言語文化に関する専門的な知識を活用し、中学校・高等学校における国語を教授できる教員の養成を目標としている。以下、教科及び教科の指導法に関する科目の履修計画を示す。1年次では、すべての免許教科共通の科目（憲法、体育実技Ⅰ/体育実技Ⅱ、健康・スポーツ科学、ベーシック・イングリッシュ及びイングリッシュ・コミュニケーション、コンピュータ・リテラシーまたは数理・データサイエンス・AI入門）を履修し、日本国憲法を基盤とした教員の職務から必然的に求められる資質・能力、体育実技や健康・スポーツ科学を通じた豊かな感性と人間性を培う能力、国際社会で求められる語学力、変化の時代を生きる社会人に求められる情報機器の操作・活用能力を身につける。沖縄の言語、漢文学概論Ⅰを履修し、沖縄地域の方言や中国文学史、漢詩文読解の基礎・概要を身につける。2年次では、日本語学概論、日本言語史、日本古典文学概論、日本古典文学史Ⅰ・Ⅱ、日本近代文学概論、日本近代文学史Ⅰを履修することで、教科に関する専門分野の基盤となる知識を身につける。また、琉球文学概論、沖縄の文学、漢文学概論Ⅱを履修することで沖縄の古典・近現代文学や琉球漢詩の知識を身につける。3年次では、現代日本語論、日本古典文学論、日本近代文学論を履修し、教科に関する専門分野に関わる学びの深化を図る。また、書写・書道概論を履修し、書道の教授方法の基本を理解する。さらに国語科教育法Ⅰ・Ⅱを履修することで、国語科教育の意義・必要性・内容を理解するとともに国語科教員としての資質を高めるために指導法を実践的に学び、知識や技術を身につける。4年次では、中学校・高等学校での教育実習に臨み、教職実践演習を履修し、国語科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を踏まえ、教材研究、指導案の作成、模擬授業を重ねて、専門科目における実践的な指導力を養成する。

国際文化コースでは、日本・沖縄のみならず世界の様々な地域の歴史や文化を広く学ぶことで、多様な価値観を重視し、地域社会・国際社会の平和を希求する教員の養成を目標としている。1年次では、すべての免許教科共通の科目を履修し、日本国憲法を基盤とした教員の職務から必然的に求められる資質・能力、体育実技を通じた豊かな感性と人間性を培う能力、国際社会で求められる語学力、変化の時代を生きる社会人に求められる情報機器の操作・活用能力を身につける。「世界史概論」「人文地理学」「政治学」などの教養教育科目を履修することで、歴史・地理・公民の各分野の基礎的な知識を身につける。2年次では、沖縄・日本を含めた環太平洋諸地域の社会・文化を扱う科目を広く履修することで、地理的環境にもとづく各地域独自の歩みや文化を知るとともに、それらの地域の人々が出会い、異なる地域間が結びつくことで起きた出来事や生まれた新たな文化について学ぶ。3年次では、アジアや中南米の歴史や文化・社会を学ぶ科目を履修することで、歴史をひとつの国で完結するものではなく、広がりをもった面としての歴史観を育成する。また、国際関係・国際政治に関わる科目により、政治・外交に関わる概念・理論を学ぶとともに、日本以外の様々な国の立場や視点を知ることができる。これらを通じて、国内外の状況への深い理解をもとに現代社会を見つめなおすことを目指す。4年次には教科教育法を履修するなかで、指導案を作成し、模擬授業を経験することで、社会科教員としての実践力を身につける。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨(学科等ごとに校種・免許教科別に記載)

■ 中学校教諭一種免許(国語)

国際学部国際文化学科の日本語・日本文学コースでは、国際的な教養・視野を身につけつつ、母語と

しての日本語の特質についての深い理解力、そして日本文学についての幅広い知識と読解力を備え、さらに物事を論理的かつ批判的に思考し、的確に表現する力を身につけるための教育課程を編成・運用している。とくに日本語学・古典文学（琉球文学も含む）・近現代文学（沖縄文学も含む）の各分野をすべて履修させる教育課程によって国語を担当する中学校教員に求められる、日本人や日本文化に関する体系的で正確な知識を身につけることができる。このことから実践的な日本語の能力と言語文化に関する専門的な知識を活かして授業ができる能力を備え、中学校における国語教育に貢献することができる人材の育成・輩出を目指す。

■高等学校教諭一種免許（国語）

国際学部国際文化学科の日本語・日本文学コースでは、国際的な教養・視野を身につけつつ、母語としての日本語の特質についての深い理解力、そして日本文学についての幅広い知識と読解力を備え、さらに物事を論理的かつ批判的に思考し、的確に表現する力を身につけるための教育課程を編成・運用している。とくに日本語学・古典文学（琉球文学も含む）・近現代文学（沖縄文学も含む）の各分野をすべて履修させる教育課程によって国語を担当する高等学校教員に求められる、日本人や日本文化に関するより体系的な知識と深い理解力を身につけることができる。また、年次毎に演習を履修することによって、他者との対話を通しての相互理解、論理的思考力や表現力の向上を図ることができる。これらのことから実践的な日本語の能力と言語文化に関するより専門的な知識を活かして授業ができる能力を備え、高等学校における国語教育に貢献することができる人材の育成・輩出を目指す。

■中学校教諭一種免許（社会）

沖縄県は、アジア諸国を交易でつないだ琉球王国としての歴史を有するとともに、沖縄戦の経験・記憶、米軍基地・安全保障に関わる事象と向き合う、国際社会との結びつきが強い土地である。国際学部国際文化学科の国際文化コースのカリキュラムはそのような「沖縄県が持つ地理的・歴史的・文化的特性」を踏まえて構築されており、地理・歴史・公民各分野の深い知識と国際的な教養・視座を備えた教員を養成するのに適している。課程設置により、本学の建学の精神「平和・自由・進歩」にも適う、平和を希求し、多様な価値観を認め、地域社会・国際社会の課題と真摯に向き合う教員、すなわち日本・世界の平和と発展に資する人材（生徒）を未来へと育む教員を輩出可能と考える。

■高等学校教諭一種免許（公民）

沖縄県は、沖縄戦の経験・記憶、米軍基地・安全保障に関わる事象と向き合う、国際社会との結びつきが強い土地である。国際学部国際文化学科の国際文化コースのカリキュラムはそのような「沖縄県が持つ地理的・歴史的・文化的特性」を踏まえて構築されており、地理・歴史・公民各分野の深い知識と国際的な教養・視座を備えた教員を養成するのに適している。とりわけ公民分野については、戦争・基地・貧困など沖縄県が抱える「現代の諸課題」を、国際文化コースでは講義や実習など様々な形で扱っている。課程設置により、本学の建学の精神「平和・自由・進歩」にも適う、平和を希求し、多様な価値観を認め、地域社会・国際社会の課題と真摯に向き合う教員、すなわち「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力」の育成に尽力する教員を輩出可能と考える。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	①教員養成支援センター
目的：	教員養成支援センターは、県内外の教育機関及び地域社会と連携して、名桜大学で教員をめざす学生に、教員としての自覚と使命感を育てるとともに、幅広い教養と専門的知識を高め、多様化する児童生徒に対応し得る教員の育成を支援する。
責任者：	高安美智子
構成員(役職・人数)：	5人(教員養成支援センター長1人、教員養成支援副センター長2人 事務職員2人)
運営方法：	<p>①所管事項</p> <p>(1) 教員養成支援センターの運営及び各機関との連携に関すること。</p> <p>(2) 教職課程委員会と学科との協働体制のもとに、教員免許に関わる教職に関する科目及び教科科目の整備、充実に関すること。</p> <p>(3) 教職課程の自己点検・評価に関すること。</p> <p>(4) 教員を目指す学生への相談活動及び指導助言に関すること。</p> <p>(5) 教育実習の支援に関すること。</p> <p>(6) 教員採用試験対策の実施に関すること。</p> <p>(7) 教員としての専門性を深める各種資格試験の支援に関すること。</p> <p>(8) 教員養成に関する情報収集と活用に関すること。</p> <p>(9) その他目的達成に必要と認められる活動に関すること。</p> <p>②ミーティングの開催</p> <p>ミーティングは毎週開催を基本とし、必要に応じて臨時に開催する。</p>

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図

別紙参照

組織名称：	②教職課程委員会
目的：	教職課程委員会は、本学の教職課程に関する内容についての審議決定を行うとともに、教職課程に関する情報を交換し、共通理解を形成することを目的とする。
責任者：	高安美智子
構成員(役職・人数)：	① 8人(教員養成支援センター長1人、教員養成支援副センター長2人、各教科等担当者から選出された専任の教員各1人、学長が特に必要と認める者1人)
運営方法：	<p>①所管事項</p> <p>(1) 教職課程運営の基本方針及び実施に関すること。</p>

様式第7号イ

<p>(2) 教育実習運営の基本方針及び実施に関すること。</p> <p>(3) 教育実習校の選定及び折衝に関すること。</p> <p>(4) 教育実習生の配置に関すること。</p> <p>(5) 教育実習生のオリエンテーション及び指導に関すること。</p> <p>(6) 介護等体験の実施に関すること。</p> <p>(7) その他教職課程に関すること。</p> <p>②委員会の開催</p> <p>委員会は毎月開催を基本とし、必要に応じて臨時に開催する。</p>

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図

別紙参照

II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

<p>○北部12市町村教育委員会との教育連携に関する協定に基づく連携・協働</p> <p>2013年に結んだ北部12市町村教育委員会との教育連携に関する協定に基づき、市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携・協働による取り組みを円滑に実施するために、教員養成支援センターが中心となり連絡調整、意見交換等を行う。</p> <p>○教員養成支援センターによる学外の関係諸機関との連携</p> <p>県内外の教育機関及び地域社会と連携して、名城大学で教員をめざす学生に、教員としての自覚と使命感を育てるとともに、幅広い教養と専門的知識を高め、多様化する児童生徒に対応し得る教員の育成を支援する教員養成支援センターを設置し、学外の関係諸機関との連携・協働を図り、質の高い教員養成に資する。</p>
--

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： 長期ボランティア活動
連携先の調整方法： 4月、10月にボランティア交流集会を実施し、ボランティアを求める各機関の方々と、ボランティアを希望する学生が一堂に会することで配置先を調整し、取り組むようにしている。
具体的な内容： 名護市近郊の小・中・高等学校等での学習支援、スポーツ活動支援等に取り組むことによって、教職履修学生が、子ども・青年理解、あるいは、学校等の機関や家庭、地域社会の状況等についての理解を深める。

取組名称： 中期ボランティア活動
連携先の調整方法： 教員養成支援センターが恩納村、宜野座村教育委員会の要請を受け、希望学生を募り、各教育委員会の面接を経て、取り組むようにしている。
具体的な内容： 半年間ほどにわたる恩納村未来塾、宜野座村漢那区での高校受験生指導に取り組むことによって、教職履修学生が、子ども・青年理解を深め、かれらの学力保障に貢献する。

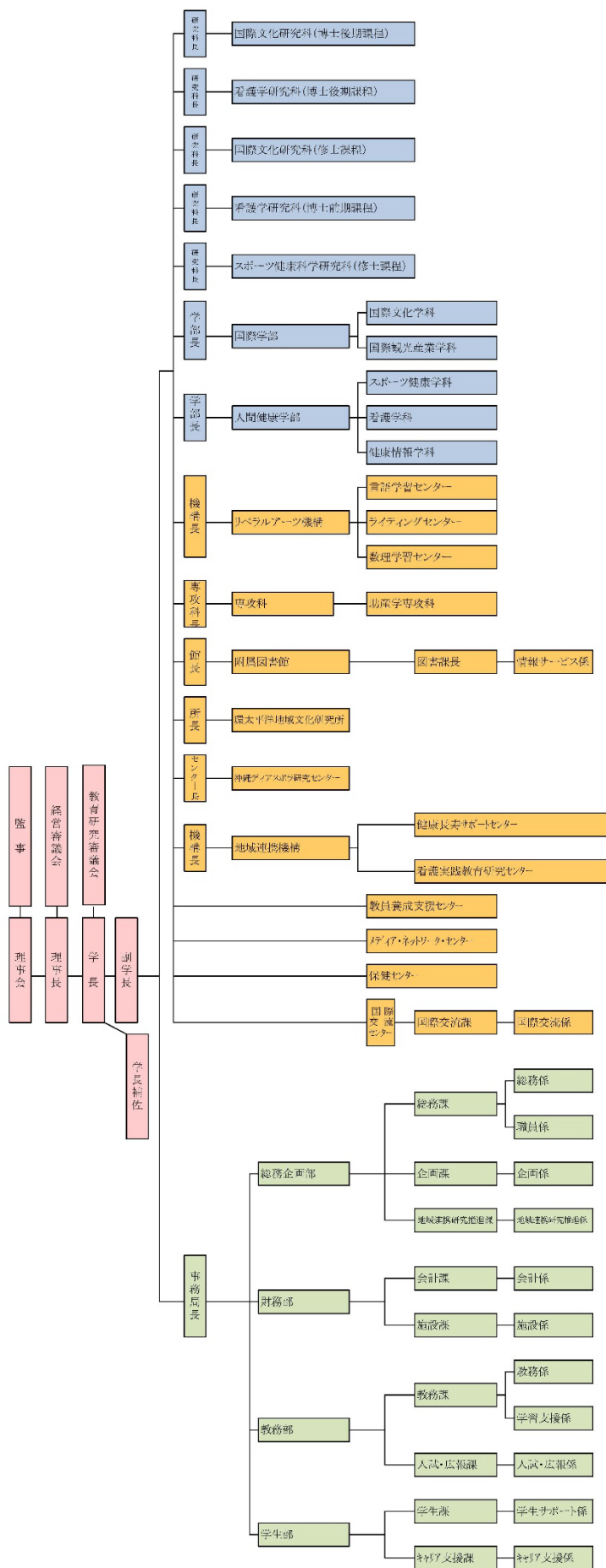
様式第7号イ

取組名称：	短期宿泊型ボランティア活動
連携先との調整方法：	教員養成支援センターが各学校、教育委員会の要請を受け、希望学生を募り、取り組むようにしている。
具体的な内容：	夏季休業期間の1週間、伊是名島・伊平屋島、国頭村での宿泊型学習支援等を実施し、教職履修学生が、子ども・青年や学校等の機関や家庭、地域社会の状況等、さらには、離島は僻地における教育の現状と課題を考える機会とする。

Ⅲ. 教職指導の状況

<p>○『教職課程のてびき』を活用した新入生ガイダンスの実施</p> <p>本学では、『教職課程のてびき』を作成し、教職課程の全体像や履修モデルを示している。新入生ガイダンスでは、建学の精神や各学部・学科等の教育目標を説明するとともに、『教職課程の手引き』を配布し、本学の教職課程について説明している。</p> <p>○教員養成支援センターの設置による支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員養成支援センターによる履修等の支援 <p>教員養成支援センターを設置するとともに、教職経験豊富な専任教員を配置し、履修に関する支援、教員免許取得に必要な資格試験に関する支援、教育に関する情報提供等々を随時行う体制を整備している。</p> 2. 参考図書の整備と貸し出し <p>教員候補者採用試験対策用参考書、過去問題、沖縄県北部の小・中学校の教育計画、教科等年間指導計画、教職関係雑誌、教育新聞等を整備し、貸し出すことで、教職履修生の学習等を支援している。</p> 3. 教員候補者採用試験に向けた支援 <p>北部教員養成講座と連携・協働し、教員候補者採用試験対策に関する支援を行っている。</p> 4. 教員養成支援センターによる学外での体験活動の支援 <p>学外での教育・養護実習に関する支援、介護等体験に関する支援、ボランティア活動に関する支援を行い、それらの活動がスムーズに行われ、また、教職履修生が子ども・青年や学校等の機関や家庭、地域社会の状況等への深い理解を得ることをめざしている。</p> <p>○「振り返りシート」や「教職履修カルテ」を用いた学習の振り返り</p> <p>教職科目担当教員が協働し、同一の書式の「振り返りシート」を用いて、教職履修学生が、各教職科目において学んだ内容を整理し、書き終えた「振り返りシート」は教員養成支援センターにおいて一定期間保管しておくようにしている。また、学期ごとに「教職履修カルテ」に自らの学びの軌跡を記述するよう指導し、学生自身が教職に就く上で必要な能力の形成状況、形成過程を振り返り、確認できるようにしている。</p>
--

様式第7号イ
別紙 組織図



様式第7号ウ

＜国際文化学科＞（認定課程：中一種免（国語））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職免許状取得希望者を対象としたガイダンスを通して、免許状取得に向けた流れを理解し、取得の意思を決定する。教職の意義や教員の役割を理解する。子どもの心身の発達及び学習の過程と教育課程の意義の概要について理解する。教育課程「教科に関する科目」「施行規則第66条に関する科目」の履修を通して、幅広い教養を身につける。 「教科に関する専門的事項に関する科目」においては、「漢文学概論Ⅰ」で漢詩文の通史的な流れや訓読に関する基礎的知識を習得する。
	後期	教職の概要を理解し、自身の適性を考える。教育に関する理念・歴史・制度について理解する。子どもの心身の発達及び学習の過程と教育課程の意義の概要について理解する。前期に引き続いて「施行規則第66条に関する科目」の履修を通して、幅広い教養を身につける。 「教科に関する専門的事項に関する科目」においては、「沖縄の言語」で沖縄方言の特徴や日本語との関係に関する基礎的な知識を習得する。
2年次	前期	「教職に関する科目」の履修を本格的に開始し、教職・教育に関する知識を身につける。教科・分野についても専門的な学習を始める。子どもの発達とその支援に向けた取り組みや教育課程の問題について理解する。総合的な学習（探究）の時間や特別活動についての理解を深め、指導方法に関する基礎的な知識や能力を身につける。 「教科に関する専門的事項に関する科目」においては、「日本語学概論」や「日本古典文学概論」、「日本古典文学史Ⅰ」、「日本近代文学史」で国語・国文学の専門領域を学ぶ上での基本的知識を身につける。
	後期	「教職に関する科目」の履修を継続し、教職・教育に関する知識を身につける。教科・分野についても専門的な学習に引き続き取り組む。子どもの発達とその支援に向けた働きかけや教育課程の問題について理解する。特別活動についての理解を深め、指導方法に関する基礎的な知識や能力を身につける。 「教科に関する専門的事項に関する科目」においては、「日本言語史」や「日本古典文学史Ⅱ」、「日本近代文学論Ⅱ」、さらに「琉球文学概論」、「沖縄の文学」で国語・国文学（琉球・沖縄文学を含む）の専門領域を学ぶ上での基本的知識を習得する。また、「漢文学概論Ⅱ」で各時代の漢詩の特徴を捉えるとともに琉球漢詩についての知識を身につける。
3年次	前期	これまで学んできた教育の原理や指導法を踏まえ、「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」（どちらも通期科目）で事例研究や模擬授業を行うことで、中学国語科教員としての心構えや教育の目標・内容・方法・評価の概要を理解し、指導技術を身につける。また、教科指導以外の指導（進路指導や教育相談）の内容について理解する。介護等体験の事前指導を受講し、介護等体験への参加の準備を進める。教育実習参加のための諸条件を満たし、申請を行う。 「教科に関する専門的事項に関する科目」においては、「現代日本語論」や「日本近代文学論」で国語・国文学領域の専門知識や研究方法の基礎を習得する。また、「書写・書道概論」で国語科書写の学習内容を理解し、指導者としての態度や技能を身につける。
	後期	介護等体験への参加を通して自身の適性を見つめ直すとともに、社会人・教員としての常識やマナーを身につけているかどうかを再確認する。4年次での教育実習を前に、教育現場で必要とされるさまざまな事項（学習指導要領・指導計画・評価方法など）への理解を深める。教育実習配置予定者の決定を受け、実習校への訪問・挨拶を行う。 「教科に関する専門的事項に関する科目」においては、「日本古典文学論」で国文学領域の専門知識や研究方法の基礎を習得する。
4年次	前期	これまでに身につけた教職・教科に関する知識・技術を応用して教育実習を行い、教員としての資質を高める。教育現場の状況を的確に把握し、課題解決に向けて取り組む。教員採用試験の受験準備を進める。
	後期	4年間の学びを振り返り、不足している知識・技術を補う。教育実習報告会に参加して実習体験を振り返り、自己の課題を再確認する。教育の意義について再確認し、教員としての自覚を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

＜国際文化学科＞（認定課程：中一種免（国語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職概論	漢文学概論Ⅰ		憲法	日本語理解論
					コンピュータリテラシー	教養演習Ⅰ
					体育実技Ⅰ	アカデミックライティングⅠ
	後期	教育原理	沖縄の言語		体育実技Ⅱ	言語と文学
					イングリッシュ・コミュニケーション	文学
					健康・スポーツ科学	教養演習Ⅱ
2年次	前期	教育制度論	日本語史			日本近代文学概論Ⅰ
		教育心理学	日本古典文学史Ⅰ			日本文化概論
		特別支援教育	日本古典文学概論			沖縄の社会
			日本近代文学史			国際文化基礎演習
	後期	教育課程論	日本語学概論			日本語表現論
		総合的な学習の時間の指導	日本古典文学史Ⅱ			沖縄地域文化論
		特別活動の指導法	日本近代文学概論Ⅱ			日本の宗教
			沖縄の文学			比較思想論
			琉球文学概論			国際文化専門演習Ⅰ
			漢文学概論Ⅱ			
3年次	前期	道德教育の理論と方法	現代日本語論	介護等体験		教育支援演習
		教育補法（ICTの活用を含む。）	日本近代文学論			教育支援実習
		生徒指導の理論及び方法	書写・書道概論			日本語教授法
		国語科教育法Ⅰ				国際文化専門演習Ⅱ
	後期	教育相談	日本古典文学論			琉球語学論
		進路指導論				国際文化専門演習Ⅲ
		中学校教育実習事前指導				日本語教育実践演習
		国語科教育法Ⅱ				
4年次	前期	中学校教育実習				国際文化専門演習Ⅳ
	後期	教職実践演習（中・高）				国際文化専門演習Ⅴ

様式第7号ウ

＜国際文化学科＞（認定課程：高一種免（国語））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職免許状取得希望者を対象としたガイダンスを通して、免許状取得に向けた流れを理解し、取得の意思を決定する。教職の意義や教員の役割を理解する。子どもの心身の発達及び学習の過程と教育課程の意義の概要について理解する。教育課程「教科に関する科目」「施行規則第66条に関する科目」の履修を通して、幅広い教養を身につける。 「教科に関する専門的事項に関する科目」においては、「漢文学概論Ⅰ」で漢詩文の通史的な流れや訓読に関する基礎的知識を習得する。
	後期	教職の概要を理解し、自身の適性を考える。教育に関する理念・歴史・制度について理解する。子どもの心身の発達及び学習の過程と教育課程の意義の概要について理解する。前期に引き続いて、「施行規則第66条に関する科目」の履修を通して、幅広い教養を身につける。 「教科に関する専門的事項に関する科目」では、「沖縄の言語」で沖縄方言の特徴や日本語との関係に関する基礎的な知識を習得する。
2年次	前期	「教職に関する科目」の履修を本格的に開始し、教職・教育に関する知識を身につける。教科・分野についても専門的な学習を始める。子どもの発達とその支援に向けた取り組みや教育課程の問題について理解する。総合的な学習（探究）の時間や特別活動についての理解を深め、指導方法に関する基礎的な知識や能力を身につける。 「教科に関する専門的事項に関する科目」においては、「日本語学概論」や「日本古典文学概論」、「日本古典文学史Ⅰ」、「日本近代文学史」で日本語・日本文学の専門領域を学ぶ上での基本的知識を身につける。
	後期	「教職に関する科目」の履修を継続し、教職・教育に関する知識を身につける。教科・分野についても専門的な学習に引き続き取り組む。子どもの発達とその支援に向けた働きかけや教育課程の問題について理解する。特別活動についての理解を深め、指導方法に関する基礎的な知識や能力を身につける。 「教科に関する専門的事項に関する科目」においては、「日本語史」や「日本古典文学史Ⅱ」、「日本近代文学論Ⅱ」、さらに「琉球文学概論」、「沖縄の文学」で日本語・日本文学（琉球・沖縄文学）の専門領域を学ぶ上での基本的知識を習得する。また、「漢文学概論Ⅱ」で各時代の漢詩の特徴を捉えるとともに琉球漢詩についての知識を身につける。
3年次	前期	これまで学んできた教育の原理や指導法を踏まえ、「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」（どちらも通期科目）事例研究や模擬授業を行うことで、高等学校国語科教員としての心構えや教育の目標・内容・方法・評価の概要を理解し、指導技術を身につける。また、教科指導以外の指導（進路指導や教育相談）の内容について理解する。教育実習参加のための諸条件を満たし、申請を行う。 「教科に関する専門的事項に関する科目」においては、「現代日本語論」や「日本近代文学論」で日本語・日本文学の専門知識や研究方法の基礎を習得する。
	後期	4年次での教育実習を前に、教育現場で必要とされるさまざまな事項（学習指導要領・指導計画・評価方法など）への理解を深める。教育実習配置予定者の決定を受け、実習校への訪問・挨拶を行う。 「教科に関する専門的事項に関する科目」においては、「日本古典文学論」で国文学領域の専門知識や研究方法の基礎を習得する。
4年次	前期	これまでに身につけた教職・教科に関する知識・技術を応用して教育実習を行い、教員としての資質を高める。教育現場の状況を的確に把握し、課題解決に向けて取り組む。教員採用試験の受験準備を進める。
	後期	4年間の学びを振り返り、不足している知識・技術を補う。教育実習報告会に参加して実習体験を振り返り、自己の課題を再確認する。教育の意義について再確認し、教員としての自覚を身につける。

様式第7号ウ(教諭)

<国際文化学科>(認定課程:高一種免(国語))

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職概論	漢文学概論 I		憲法	日本語理解論
					コンピュータリテラシー	教養演習 I
					体育実技 I	アカデミックライティング I
	後期				ベーシック・イングリッシュ	
		教育原理	沖縄の言語		体育実技 II	言語と文学
					イングリッシュ・コミュニケーション	文学
			健康・スポーツ科学	教養演習 II		
			数理・データサイエンス・AI入門			
2年次	前期	教育制度論	日本語史			日本近代文学概論 I
		教育心理学	日本古典文学史 I			日本文化概論
		特別支援教育	日本古典文学概論			沖縄の社会
			日本近代文学史			国際文化基礎演習
	後期	教育課程論	日本語学概論			日本語表現論
		総合的な学習の時間の指導法	日本古典文学史 II			沖縄地域文化論
		特別活動の指導法	日本近代文学概論 II			日本の宗教
			沖縄の文学			比較思想論
			琉球文学概論			国際文化専門演習 I
		漢文学概論 II				
3年次	前期	教育方法(ICTの活用含む。)	現代日本語論			教育支援演習
		生徒指導の理論及び方法	日本近代文学論			教育支援実習
		国語科教育法 I				日本語教授法
	後期					国際文化専門演習 II
		教育相談	日本古典文学論			琉球語学論
		進路指導論				国際文化専門演習 III
		高等学校教育実習事前指導				日本語教育実践演習
	国語科教育法 II					
4年次	前期	高等学校教育実習				国際文化専門演習 IV
	後期	教職実践演習(中・高)				国際文化専門演習 V

様式第7号ウ

＜国際文化学科＞（認定課程：中一種免（社会））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教員免許状取得希望者を対象としたガイダンスを通じて、免許状取得に向けた流れを理解し、取得の意思を決定する。教職の意義や教員の役割を理解する。「教科に関する科目」「施行規則第66条の6に関する科目」の履修を通して、幅広い教養を身につける。
	後期	教職の概要を知り、自身の適性を考える。「教科に関する科目」のうち、一般的包括的内容を含む科目を中心に履修し、社会科を担当する中学校教諭に必要な地理学分野、社会学分野、哲学分野等の基礎的な知識を身につける。教員免許状取得希望者を対象とした研修合宿への参加を通して、課題解決への主体性を育む。
2年次	前期	「教科に関する科目」の履修を本格的に開始し、特に日本史分野に関する専門的な知識を身につける。また、教職・教育に関する知識(理念・歴史・思想など)を身につける。学習ボランティア等に積極的に参加し、教育現場との関わりを持つ。
	後期	これまで学んできた教育の基礎理論に加えて、具体的な指導法の学習も始め、実践的な力を育む。大学が設定している教職課程履修希望者むけの諸条件を満たす。現代社会におけるグローバル化の進展、情報通信技術の進歩、地域間の結びつきの変化と創出など「社会的な見方・考え方」に関心を持ち、それらを教科・分野に関する専門的な知見から考察する習慣を身につけ、社会科教諭としての素養を高める。
3年次	前期	これまで学んできた教育の原理や指導法を踏まえ、事例研究や模擬授業を行うことで、社会科教諭としての心構えや指導技術を身につける。教科指導以外の指導・教育(生徒指導や道徳教育)の内容について知る。教育実習参加のための諸条件(漢字検定準2級)を満たし、申請を行う。
	後期	4年次での教育実習を前に、教育現場で必要とされる様々な事項(学習指導要領・指導計画・評価方法など)への理解を深める。教育実習配置予定者の決定を受け、教育実習校への訪問・挨拶を行う。
4年次	前期	これまでに身に付けた教職・教科に関する知識・技能を応用して教育実習を行い、教員としての資質を高める。教育現場の状況を的確に把握し、課題解決に向けて取り組む。教員採用試験の受験準備を行う。
	後期	4年間の学びを振り返り、不足している知識・技術を補う。教育実習報告会に参加して実習体験を振り返り、自己の課題を再認識する。教員の意義について再確認し、教員としての自覚を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

<国際文化学科>（認定課程：中一種免（社会））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職概論	政治学		憲法	沖縄学
			法学		コンピュータ・リテラシー	異文化接触論
			日本史概論		体育実技Ⅰ	
			世界史概論		ベーシック・イングリッシュ	
	後期	経済学総論				
		教育原理	哲学		体育実技Ⅱ	比較芸術論
			社会学		イングリッシュ・コミュニケーション	現代思想
			人文地理学		健康・スポーツ科学	地域研究方法論
		国際社会と日本		数理・データサイエンス・AI入門		
		比較宗教論				
2年次	前期	教育制度論	日本の歴史Ⅰ			文化人類学
		教育心理学	地誌学			国際関係論
		特別支援教育	日本文化概論			中南米の文化
			中南米の歴史			地域文化演習
			アジアの歴史			現地実習
			アジアの宗教			
	後期	沖繩の地域史				
		教育課程論	倫理学			日米関係論
		総合的な学習の時間の指導法	世界の歴史			アジアの文化
		特別活動の指導法	日本の宗教			国際文化特別講義Ⅱ
			日本の社会			
			国際政治論			
		自然地理学概論				
3年次	前期	道徳教育の理論と方法	日本史史料講読	介護等体験		移民と異文化
		教育方法(ICTの活用を含む。)	中南米の社会			国際機構論
		生徒指導の理論及び方法				
		社会科教育法Ⅰ				
	後期	教育相談	国際法			アジアの言語
		進路指導論				中南米の文学
		中学校教育実習事前指導				アジアの政治と社会
		社会科教育法Ⅱ				
4年次	前期	中学校教育実習				
	後期	教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

＜国際文化学科＞（認定課程：高一種免（公民））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教員免許状取得希望者を対象としたガイダンスを通じて、免許状取得に向けた流れを理解し、取得の意思を決定する。教職の意義や教員の役割を理解する。「教科に関する科目」「施行規則第66条の6に関する科目」の履修を通して、幅広い教養を身につける。
	後期	教職の概要を知り、自身の適性を考える。「教科に関する科目」のうち、特に一般的包括的内容を含む科目を中心に履修し、公民を担当する教諭に必要な政治学や哲学等の基礎的な知識を身につける。教員免許状取得希望者を対象とした研修合宿への参加を通して、課題解決への主体性を育む。
2年次	前期	「教科に関する科目」のうち、より専門性の高い科目を履修し、公民で扱う各分野への理解を深める。教職・教育に関する知識（理念・歴史・思想など）を身につける。学習ボランティア等に積極的に参加し、教育現場との関わりを持つ。
	後期	これまで学んできた教育の基礎理論に加えて、具体的な指導法の学習も始め、実践的な力を育む。大学が設定している教職課程履修希望者むけの諸条件を満たす。国際関係に関する講義、宗教・倫理に関する科目などの履修を通して、「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」とは何かを考察し、公民教諭としての素養を高める。
3年次	前期	これまで学んできた教育の原理や指導法を踏まえ、事例研究や模擬授業を行うことで、公民教諭としての心構えや指導技術を身につける。教科指導以外の指導（進路指導や教育相談）の内容について知る。教育実習参加のための諸条件（漢字検定準2級）を満たし、申請を行う。
	後期	4年次での教育実習を前に、教育現場で必要とされる様々な事項（学習指導要領・指導計画・評価方法など）への理解を深める。教育実習配置予定者の決定を受け、教育実習校への訪問・挨拶を行う。
4年次	前期	これまでに身につけた教職・教科に関する知識・技能を応用して教育実習を行い、教員としての資質を高める。教育現場の状況を的確に把握し、課題解決に向けて取り組む。教員採用試験の受験準備を行う。
	後期	4年間の学びを振り返り、不足している知識・技術を補う。教育実習報告会に参加して実習体験を振り返り、自己の課題を再認識する。教員の意義について再確認し、教員としての自覚を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

＜国際文化学科＞（認定課程：高一種免（公民））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職概論	政治学		憲法	沖縄学
			法学		コンピュータリテラシー	日本史概論
			経済学総論		体育実技Ⅰ	世界史概論
	後期	教育原理	社会学		ベーシック・イングリッシュ	地域研究方法論
					体育実技Ⅱ	経済学
			哲学		イングリッシュ・コミュニケーション	歴史学
		比較宗教論		健康・スポーツ科学	国際社会と日本	
				数理・データサイエンス・AI入門	美術の歴史と鑑賞	
2年次	前期	教育制度論	沖縄の地域史			文化人類学
		教育心理学	アメリカ政治外交論			国際関係論
		特別支援教育	アジアの宗教			中南米の歴史
						地域文化演習
						現地実習
	後期	教育課程論	国際政治論			日本の歴史Ⅰ
		総合的な学習の時間の指導法	日本の宗教			日米関係論
		特別活動の指導法	倫理学			アジアの文化
		日本の社会			国際文化特別講義Ⅱ	
					日本の歴史Ⅱ	
3年次	前期	教育方法(ICTの活用を含む。)	中南米の社会			国際機構論
		生徒指導の理論及び方法				日本史史料講読
		公民科教育法Ⅰ				教育支援演習
	後期					教育支援実習
		教育相談	国際法			アジアの言語
		進路指導論				中南米の文学
		高等学校教育実習事前指導				アジアの政治と社会
	公民科教育法Ⅱ					
4年次	前期	高等学校教育実習				
	後期	教職実践演習(中・高)				